

(9) 西予ブロック（西予市）

～産地づくり～

県育成品種等や基盤整備地に導入する戦略品目等を基幹品目として、気象や立地条件等地域の「強み」を活かした生産体制の強化を図るとともに、今後新たな産地化に向けた品目等について、市場情勢の変化への対応やマーケットの開拓等出口戦略を見据えた生産振興と、それを維持するための労働力確保等中長期的な産地づくりに取り組みます。

～推進品目や産地づくりの方向～

○売れる米づくりと水田フル活用による産地強化

【取組】

- ① 減農薬・省力栽培や「ひめの凜」の高品質生産の推進
- ② 適切な施肥時期、施肥量推進による、良食味産地の確立支援
- ③ 「あきたこまち」から「にじのきらめき」への転換推進
- ④ スマート農業技術の導入推進
- ⑤ 良食味米産地としての認知度向上及び販路拡大対策の推進

【成果】

- ① 減農薬・省力技術の実証ほ（31カ所）及び「ひめの凜」の実証ほを設置（7カ所）し、生産技術を周知
- ② ・「ひめの凜」1等比率：84%（R5：74%、R4：71%、R3：89%）
・良食味分析点数：130点
- ③ ・「にじのきらめき」転換方針検討・指導者研修会（2回）
・生産者への周知・意識啓発（広報誌執筆6回）
・令和7年産に向けた種苗確保（面積：260ha）
- ④ GPS付農機やドローンを導入
- ⑤ 「西予米No.1コンテスト」で2人表彰、栽培歴公表



現地研修会（8月）



西予米No.1コンテスト

○魅力あるかんきつ産地の維持

【取組】

- ① 温州みかんの高品質生産を目指し、定点調査や果実肥大調査の結果等を踏まえた芽花管理や摘果、剪定技術を指導
- ② 4Hクラブで、愛媛大学生と連携した地域振興活動を実施
- ③ 小学校への出前授業を年3回実施
- ④ 南予用水施設の老朽化対策の推進

【成果】

- ① ・温州みかんの剪定技術を習得
・荷受数量 明浜町：250t（R5：621t、R4：730t）
三瓶町：1,135t（R5：1,890t、R4：1,740t）
- ② 地元かんきつを使用したスムージー等を開発し、販売
- ③ 小学5年生児童15人の農業への興味喚起が促進
- ④ 2地区（明浜、三瓶）の基幹水利施設で老朽化対策を実施：140052千円



粗摘果講習会



南予用水施設の老朽化対策

○県下最大の野菜産地の維持・発展

【取組】

- ① 耐病性品種導入によるきゅうりの生産振興
- ② 夏季の高温対策と環境制御技術等によるトマト・ミニトマトの生産振興
- ③ いちごの省力化技術やIPM※への取組推進
- ④ 高原にんにくの高品質安定生産による産地化推進

【成果】

- ① 耐病性品種を10haで導入
- ② ・生産量：173t（R5比：101%）、栽培面積：2.6ha（同104%）
・夏季の高温対策に遮光資材等を導入：20戸
- ③ 省力化のためのIPM技術導入農家：19戸
- ④ ・生産量：3t（R5：3t、R4：2.7t、R3：2.7t）
・栽培面積：1.1ha（R5：1ha、R4：1ha、R3：1ha）
・野村高校と連携し、にんにくプリン等の加工品を開発



導入機械の効果実証

※ IPM：利用可能なすべての防除技術（耕種的防除、物理的防除、生物的防除、化学的防除）の経済性を考慮しつつ、総合的に講じることで病害虫・雑草の発生を抑える技術

○中山間地域の果樹振興、ゆず・くり産地の強化

【取組】

- ① ゆずの高品質安定生産を推進するため、整枝剪定等を重点指導
- ② 環境負荷軽減を図るため、ゆずの有機栽培を推進
- ③ くりの高品質生産を推進するための栽培指導

【成果】

- ① ゆず出荷量：487 t〔R5：841t、R4：445t、R3：660t〕
 - ② ゆずの有機栽培面積：1.6 ha〔R5：1.6ha〕
 - ③
 - ・くりの平均単価：756.8円/kg〔R5：788.2円/kg〕
 - ・「奥伊予特選栗※」認定園地数：34〔R5：35、R4：37、R3：39〕
 - ・特選栗出荷量：21t〔R5：41t、R4：28t、R3：38t〕
- ※ 奥伊予特選栗：厳しい園地審査等をクリアした大玉の特選栗



ゆずの剪定指導



奥伊予特選栗審査会



ケール生育状況調査



さといもの現地研修会

○基盤整備等を契機とした高収益野菜の産地化

【取組】

《野村町太田権現地区》

- ① 加工用青ねぎについて、収穫予測システムの精度向上に向け、定期的に生育状況調査を実施
- ② 加工用ケールでは、定期的に栄養診断を実施し、施肥量、施肥時期を検討

《宇和町・野村町》

- ① さといも現地実証圃設置（2カ所）等による栽培推進
- ② 収穫機、簡易アシストスーツ等の導入による労働環境整備

【成果】

《野村町太田権現地区》

- ①
 - ・巡回に要する労働時間が33時間/年（R5年比：92%）に削減
 - ・加工用青ねぎの省力化に向けた栽培技術が向上
- ② 栽培マニュアルへの反映させ、技術を普及

《宇和町・野村町》

- ① 栽培面積：3.4ha〔R5：2.8ha、R4：2.6ha〕
- ② 収穫機、簡易アシストスーツ等の普及開始

～地域づくり～

担い手不足と荒廃農地の増加を解消するため、生産基盤の整備を進めると同時に、担い手への農地集積と生産性の向上を図り、地域が一体となって農地を継承していくシステムを構築するとともに、生産基盤のない新規就農者をサポートするなど、農家子弟を含めた幅広い担い手の育成に取り組めます。

～推進対象や地域づくりの方向～

○地域を支える担い手の確保と育成

【取組】

- ① 生産基盤整備の実施と担い手への農地集積を促進
 - 〔伊延西地区：R元～8、A=17.9ha（103,000千円）
 - 〔野村地区：R2～7、A=7.8ha（79,888千円）
- ② 法人の経営改善相談や高収益作物の作付け体系検討により、水田農業の担い手育成を支援
- ③ かんきつ地帯の集落営農活動を促進
- ④ 各種研修会により、認定農業者の資質向上を支援

【成果】

- ① 伊延西地区及び野村地区：区画整理を実施
- ②
 - ・伊延西地区：水稻・麦・大豆中心の営農体系構築
 - ・野村地区：高収益野菜（青ねぎ・ケール）の営農体系構築
- ③ 設立した法人経営発展のため、早期成園化に向けた研修会等実施
- ④ 農作業の労働軽減を図るため、簡易アシストスーツ普及開始



ほ場整備施工状況（伊延西）



ほ場整備施工状況（野村）

○新規就農者の確保・定着と若い農業女子の活躍促進

【取組】

- ① 就農希望者に対し、研修の受講を積極的に誘導
- ② 新規就農者（独立自営）に対して、支援制度の紹介と経営開始計画の策定を指導
- ③ 年収1千万農家の育成を目標に、重点対象農家に生産技術や経営ノウハウを指導
- ④ 一次産業女子ネットワーク組織の設立推進

【成果】

- ① 就農準備研修受講者：1人（研修先：JA）
- ② 認定新規就農者：9人認定（夫婦共同含む）
- ③ 年収1千万円達成農家数：3人〔R5：1人〕
- ④ 農業女子ネットワーク組織加入者数：13人



新規就農者指導



農業女子ネットワーク

○農業・農村の強靱化に向けた防災・減災対策

【取組】

《農業用ため池》

- ① 要改修ため池改修又は廃止の計画的実施
- ② 耐震不足のものを計画的改修

【成果】

- ① 〔・ 防災重点ため池改修：1か所（24,400千円）
〔・ 防災重点ため池廃止：2か所（13,100千円）
- ② ため池の耐震調査：1か所（9,200千円）



ため池改修状況

○農地の保全管理と集落機能の維持

【取組】

- ・ 農地等の保全管理の共同活動支援

【成果】

- ・ 多面的機能支払交付金：125,308千円
- ・ 中山間地域等直接支払交付金：249,557千円
（151組織、1,696ha）



多面的機能活動

～県内一の畜産地帯の維持・発展～

【取組】

- ① 耕畜連携を推進（飼料イネ、飼料米利用）
- ② 飼料作物等自給粗飼料生産の維持・拡大
- ③ 優良後継牛の確保を推進（家畜の遺伝的能力評価）
- ④ 母牛能力に適した凍結精液の選定指導
- ⑤ 愛媛あかね和牛の生産性向上のための技術・管理指導
- ⑥ 飼養管理施設、機械設備の導入を推進

【成果】

- ① 「耕畜連携連絡協議会」連絡会議を開催し、耕種と畜産が情報交換
- ② 〔・ 飼料イネ、飼料米生産の作付面積（実績）
飼料イネ：157ha
〔R5：123ha、R4：100ha、R3：82ha〕
飼料米：40ha
〔R5：68ha、R4：78ha、R3：68ha〕
・ 飼料作物のツマジロクサヨトウ初期防除指導（4農家を観察指導）
- ③④ 繁殖牛農家重点指導：4農家で計画
（内容：母牛能力を向上させる飼料給与量・交配実施）
- ⑤ あかね和牛の肉質や肉量に影響を与える遺伝能力評価：80頭
- ⑥ 〔・ 飼料生産機械等導入件数：7件（15,900千円）
〔R5：9件、R4：18件〕
・ 新技術導入のための施設改修件数：13件（31,282千円）
〔R5：9件、R4：8件〕



飼料用米収穫



耕畜連携連絡会議



和牛の適正な交配・飼養管理の推進